

芭蕉と深川

深川芭蕉庵

芭蕉は、延宝8年（1680）、日本橋から深川に移り住み、約14年間、この草庵を拠点に活動し、「古池や蛙飛こむ水のおと」など多くの名句や『おくのほそ道』などの紀行文を残しました。

深川の草庵は、はじめ「泊船堂」といいましたが、門人の送ったバショウの株がよく茂り、人々は「芭蕉庵」と呼ぶようになりました。

●芭蕉庵はどこにあったの？

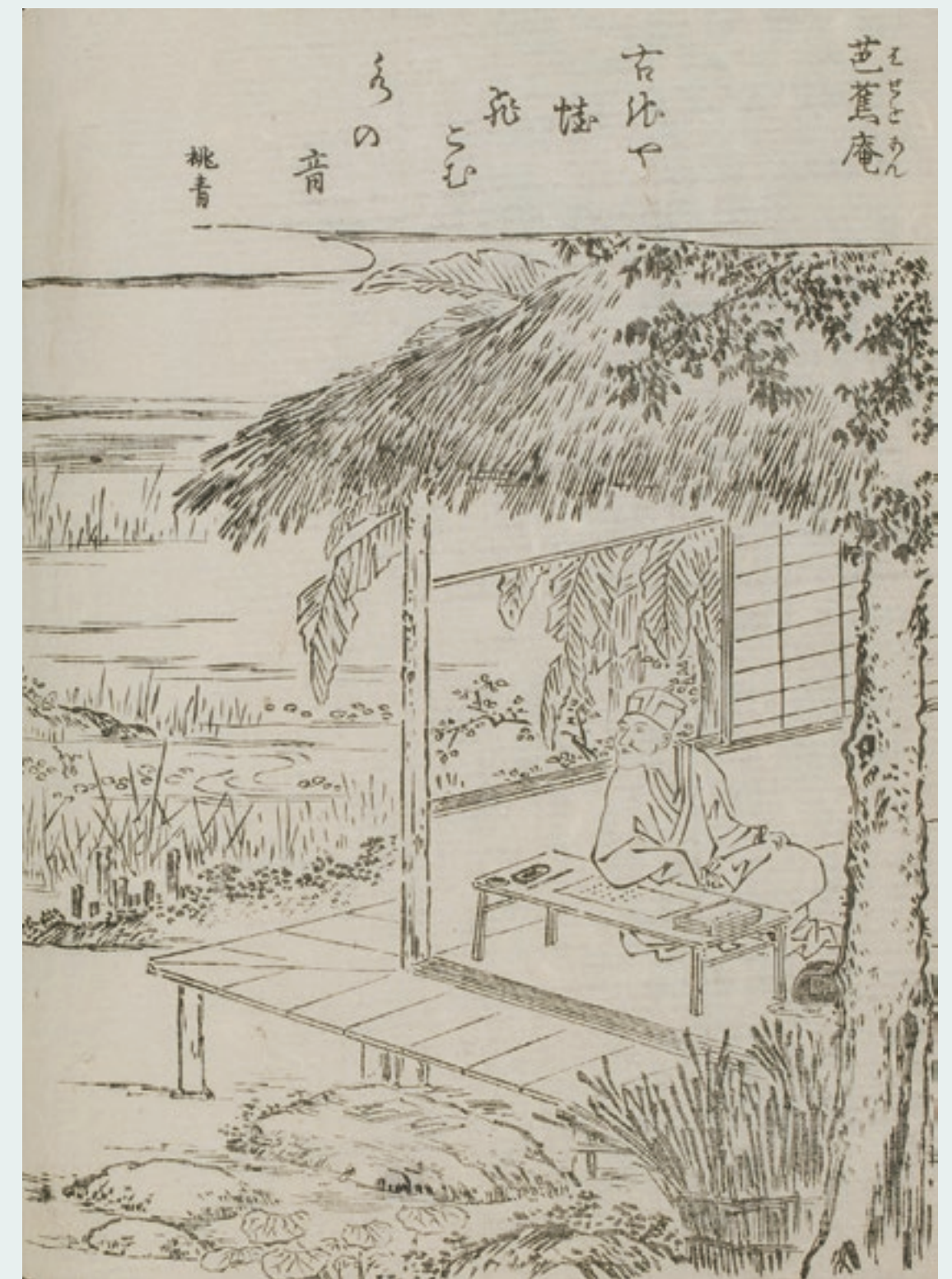
芭蕉は、深川に住むようになった後、2回住み替えています。いずれの場所も、隅田川と小名木川に挟まれた川辺だったと考えられています。

芭蕉庵の様子

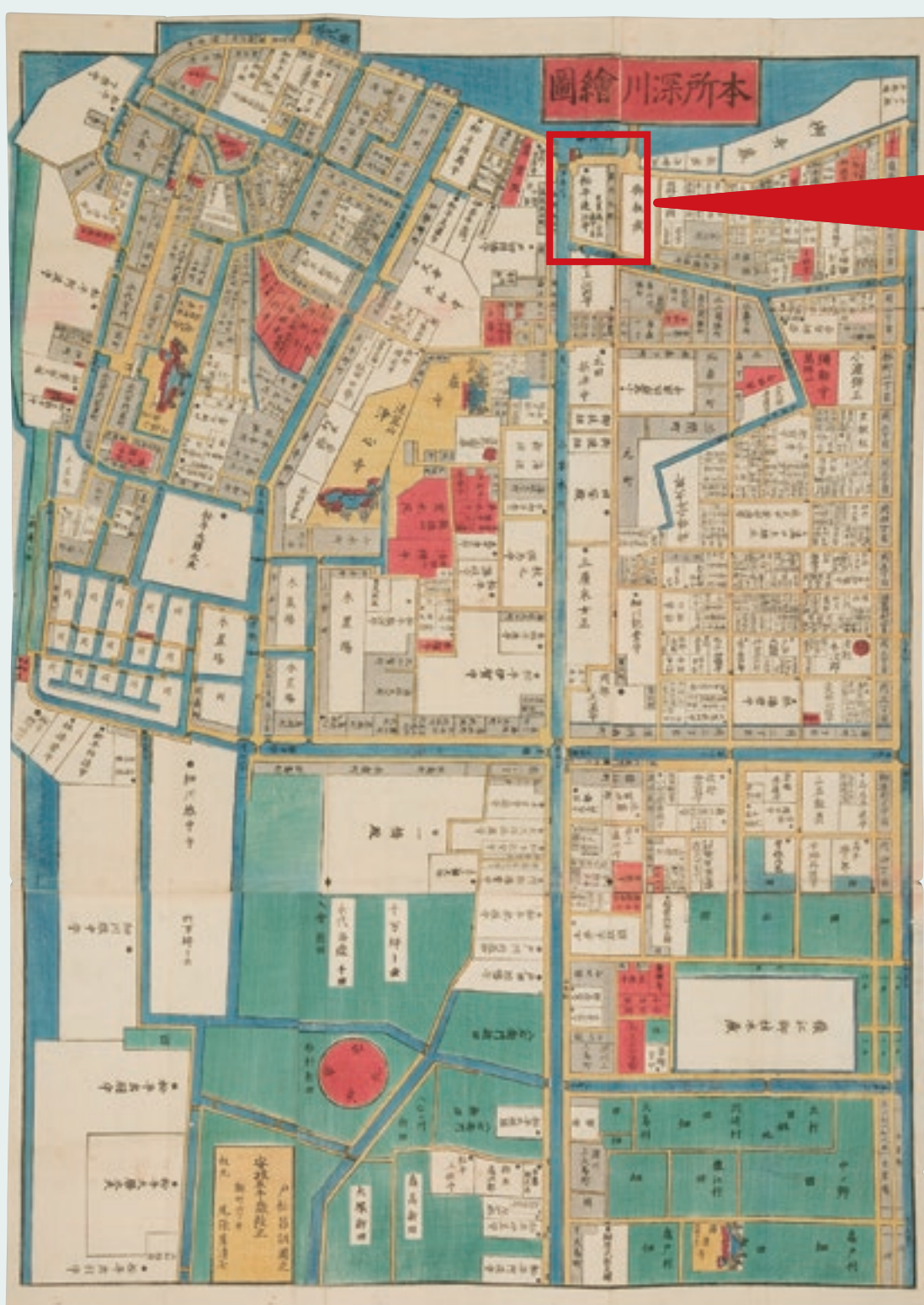
頭巾をかぶった芭蕉が句を練っています。庭にはバショウの株・竹・飛石・古池が描かれています。

芭蕉庵はどうなったの？

幕末には大名屋敷の中に残されていたようです。



「芭蕉庵」『江戸名所図会』
天保7年(1836)



「本所深川絵図」安政5年(1858)



松平遠江守の屋敷内に
「芭蕉庵ノ古跡庭中ニ有」
と記されています。

白鷗画・溪斎賛「こよひ誰」句
芭蕉坐像図



江東区 ゆかりの人

松尾芭蕉

深川での俳句(俳諧)活動

一般に、俳句の活動に専念するために芭蕉は深川に住んだと言われていま
す。深川移居をきっかけに芭蕉の俳句は変わっていきます。そして「蕉風」と
呼ばれるような芭蕉独自の俳句の世界をつくりました。

「古池や蛙飛こむ水のおと」を詠んだのは深川

貞享3年(1686)春、芭蕉庵では芭蕉をはじめ門人たち約40名が集まって、
蛙を題材にした句合が行われました。そこで芭蕉の詠んだ句が「古池や蛙飛
こむ水のおと」でした。



深川で詠んだ句

深川の草庵で詠んだ句を紹介します。

茅舎ノ感

芭蕉野分して盥に雨を聞夜哉

天和元年(1681)吟

《意味》外ではバシヨウに暴風が吹きつける音、庵の中では
盥に落ちる雨漏りの音を聞き、わびしさを感じるからだ。

草庵

花の雲鐘は上野か浅草歟

貞享4年(1687)吟

《意味》雲もような花盛りの季節、聞こえてくる鐘の音は、
上野寛永寺か浅草寺か。

蓑虫の音を聞に来よ草の庵

貞享4年(1687)吟

《意味》蓑虫の鳴く声を草庵まで聞きに来て下さい。

『あつめ句』には「くさの戸ぼそに住みわびて、あき風
のかなしげなるゆふぐれ、友達のかたへいひつかはし侍る」
とあり、芭蕉が自分の草庵へ来るように呼びかけています。

草の戸も住替る代ぞひなの家

元禄2年(1689)吟

《意味》私が住んでいた小さな家も、住む人が変わればお
雛様を飾ったりして、にぎやかな家になるのだろう。

深川を詠んだ句

●小名木川五本松

深川の末、五本松といふ所に船をさして

川上とこの川しもや月の友

元禄5、6年吟

《意味》深川の五本松まで舟を出して 小名木川に舟を浮
かべ、月を眺めているが、この川上にも同じように月を眺
める風雅の友がいることだろう。

●新大橋

新大橋は元禄6年(1693)、隅田川にかけられま
した。千住大橋、両国橋に次いで隅田川で3番目に古い
橋です。元禄5年から6年に工事が始まり、元禄6年末
に完成しました。芭蕉は、橋の建設中と完成後に句を詠
んでいます。

深川大橋半かゝりける比

初雪やかかけかゝりたる橋の上

元禄6年(1693)冬吟

前書きから橋が半分ほど出来上がった頃に詠んだことが
わかります。

新両国の橋かゝりければ

みな出て橋をいたゞく霜路哉

橋の完成後に詠んだ句です。橋に対する人々の感謝の気
持ちが表れています。この句は、別案「有がたやいたゞひ
て踏はしの霜」があります。

松尾芭蕉 年譜

年号	西暦	歳	年譜事項
寛永21	1644	1歳	伊賀国上野赤坂（三重県伊賀市）に生まれる。
寛文2	1662	19歳	藤堂藩の藤堂良忠（俳号は蝉吟）に仕え、その影響で俳諧の世界に入る。宗房と名乗り、蝉吟とともに貞門派の季吟に俳諧の指導を受ける。
寛文12	1672	29歳	『貝おほひ』を上野天神宮に奉納し、俳諧の道を志し江戸へ。
延宝5	1677	34歳	神田上水関係の仕事にかかわる。
延宝6	1678	35歳	俳諧宗匠（先生）となる。
延宝8	1680	37歳	深川の芭蕉庵に移る。この頃、深川臨川庵に滞在中の仏頂禅師と交流。
延宝9	1681	38歳	門人の季下からバショウの株を贈られ、庵号と俳号の由来となる。
天和2	1682	39歳	八百屋お七の火事で芭蕉庵類焼。
天和3	1683	40歳	再建された第二次芭蕉庵に入る。
貞享元	1684	41歳	深川から『野ざらし紀行』の旅に出る。
貞享3	1686	43歳	「古池や蛙飛び込む水の音」をよむ。
貞享4	1687	44歳	8月、『鹿島紀行』、10月、『笈の小文』の旅に出る。
貞享5	1688	45歳	『更科紀行』の旅に出る。
元禄2	1689	46歳	芭蕉庵を人に譲り、杉風の別荘に移る。『おくのほそ道』に旅立つ。
元禄5	1692	49歳	新築の第三次芭蕉庵に入る。
元禄7	1694	51歳	5月、芭蕉庵から上方へ。10月12日亡くなる。義仲寺に埋葬。



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
江東区芭蕉記念館

〒135-0006 東京都江東区常盤1-6-3
TEL 03-3631-1448 FAX 03-3634-0986
<https://www.kcf.or.jp/basho/>

分館

東京都江東区常盤1-1-3（本館から徒歩3分）



2階展示室

企画展や特別展を開催しています。



庭園

池を配した小さな日本庭園です。芭蕉の句に詠まれた草木を植え、四季折々の草花が鑑賞できます。築山の上には芭蕉庵を模した芭蕉堂があります。また、芭蕉句碑3基があります。



アクセス

地下鉄 都営新宿線・都営大江戸線
「森下」駅、A1出口 (徒歩7分)
バス 『錦11』新大橋下車 (徒歩3分)
『門33』高橋下車 (徒歩5分)
『秋26』清澄一丁目下車 (徒歩8分)
開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日 第2・4月曜日（但し祝日の場合は翌日）
年末年始 設備点検・展示替の際は、臨時休館